

令和8年産 麦類技術情報 第5号(総括号)

令和8年9月9日 宮城県美里農業改良普及センター

Tel 0229-32-3115 Fax 0229-32-2225

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



令和8年産麦類生育結果について

1 気象経過及び生育概況

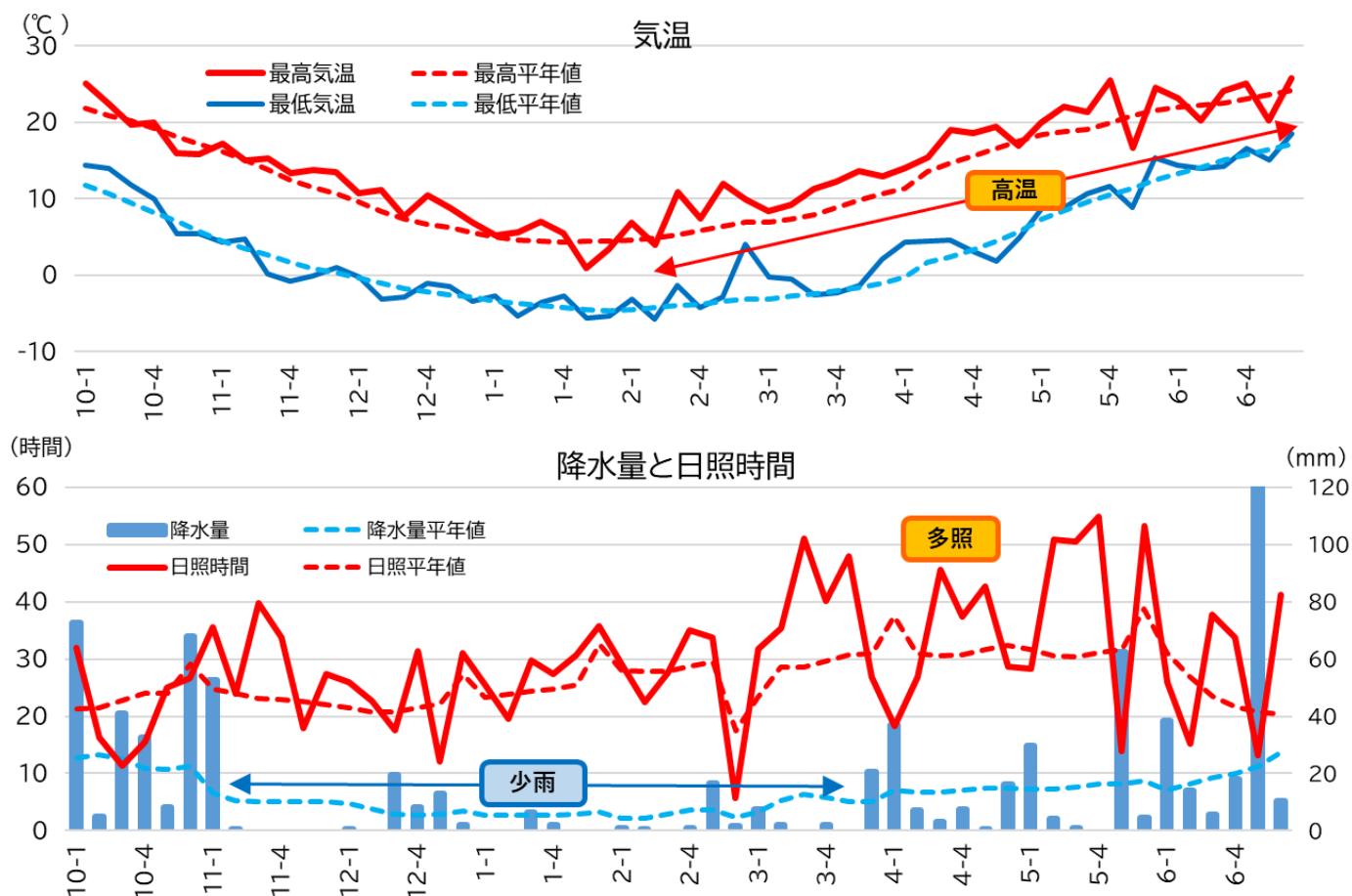


図1 管内の気象経過(鹿島台アメダス)

<越冬前>

- ・10月の降水量は平年比158%で多くなりました。
- ・気温は、11月は平年に比べやや高く(11月平均気温+0.8℃)、12月は概ね平年並みでした。
- ・降水量は少なかったものの、12月中～下旬にはまとまった雨がありました。
- 10月の降雨の影響により、一部のほ場では播種作業の遅れがみられました。

出芽は比較的良好でしたが、播種の遅れ及びここ数年に比べ低温であったことから、生育量は少なめでした。

<冬期間>

- ・平均気温は、1月は概ね平年並み、2月は平年よりも高くなりました(2月平均気温+2.1℃)。
- ・冬期は少雨多照が続きました。
- 降水量が少ないことから生育量は抑えられました。一部ほ場で鳥害が見られました。

<越冬後>

- ・3月以降高温で経過しました。また、4月まで降水量は少なくなりました。
- ・5月以降は定期的な降雨があり、5月1日、21日、6月3日、21日、22日には日降水量が25mmを超える大雨がありました。
- ・日照時間は生育期間を通じて多くなりました。

→3月下旬以降、気温の上昇とともに茎数が増加しましたが、降水量が少なかったことから多くのほ場では茎数・穂数が少なくなりました。

大麦・小麦とも出穂期は平年並みでした。

5月以降の高温と降雨の影響により、収穫間近になってから雑草が繁茂したほ場が見られました。

<作柄まとめ>

春以降暖かく、降雨量の総量も少なかったことから、湿害等による生育阻害は少なかったものの、播種の遅れと少雨により穂数・収量はやや少なくなりました。

一方で、登熟期間の日照時間が多く登熟が良かったこと、赤かび病の発生が少なかったことなどから、おおむね品質は良好でした。

2 生育調査ほ概況

表1 小麦生育調査ほの生育ステージ

品種	地区名	区分	播 種 日	幼穂形成 始期	減数分裂期	出 穂 期	成 熟 期
シラネ コムギ	大崎市 鹿島台	本年値	11月29日	3月30日	4月25日	5月7日	6月24日
		前年差	+1日	- 5日	- 2日	- 3日	- 2日
夏黄金	涌谷町	本年値	11月11日	3月30日	4月28日	5月6日	6月24日
		前年差	+ 6日	+ 3日	+ 2日	- 2日	+ 1日
		平年差	+12日	+ 5日	+ 4日	+ 2日	+ 4日

※ 平年値は過去5か年の平均。シラネコムギはR7産からほ場変更のため平年値なし

表2 小麦生育調査結果

品種	区分	播種日	条間 (cm)	成熟期					
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	坪刈り収量 (kg/10a)	千粒重 (g)	容積重 (g/L)
シラネ コムギ	本年値	11/29	15.0	82.3	7.7	788.1	622.6	35.9	772.4
	前年比・差	+1日	100%	107%	101%	129%	107%	91%	90%
夏黄金	本年値	11/11	20.1	80.4	8.1	545.2	796.6	37.0	783.3
	前年比・差	+ 6日	91%	95%	95%	99%	132%	111%	93%
	平年比・差	+12日	93%	109%	95%	122%	183%	107%	94%

<シラネコムギ>

- ・大豆後作のため播種は11月末でした。12月は周期的に降雨があったこともあり、出芽は良好でした。
- ・3月下旬以降、気温の上昇とともに急激に草丈・茎数が増加し、4月10日調査では1858本/㎡に達しました。その後半数以上の分げつが退化し、最終穂数は788本/㎡でした。
- ・収穫前に降伏したため、千粒重が小さくなりましたが、収量は前年を上回りました。

<夏黄金>

- ・10月の降雨により播種は平年より12日遅れました。
- ・出芽は良好でしたが、播種の遅れや鳥害の影響により、2月10日調査の茎数は平年対比59%の291本/㎡にとどまりました。
- ・3月下旬以降急激に草丈・茎数が増加し、最終稈長・穂数は平年を上回りました(稈長平年比109%、穂数122%)。
- ・平年に比べ収量はかなり良くなりました(平年比183%)。

表3 JA検査結果

品種名	面積(ha)		製品収量(kg/10a)		網下収量(kg/10a)		一等麦比率(%)	
	R8産	R7産	R8産	R7産	R8産	R7産	R8産	R7産
シラネコムギ	75	128	447	315	68	83	97.3	99.4
夏黄金	628	643	398	374	61	75	92.8	100.0
ホワイトファイバー	20	61	365	379	124	93	0.0	7.3
合計	723	832						

※ JA新みやぎみどりの統括営農センター調べ。

- ・すべての品種で作付け面積は減少しました。
- ・小麦の収量は昨年を上回りました。特にシラネコムギは、過去5年で最も収量が高くなりました。ホワイトファイバーは、昨年より少ないものの過去5年平均を上回る収量です。
- ・一方、一等麦割合は昨年を下回りました。

秋の農作業安全確認運動実施中！

令和8年9月1日から11月30日

「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

図：宮城県農作業安全確認運動推進資料より

シートベルト・ヘルメットの着用を徹底！



令和9年産麦類栽培に向けて

(1)排水対策

麦類は湿害を受けやすい作物です。

湿害になると・・・

播種直後:発芽不良や不揃い、
生育期間:根の伸長抑制、分げつの減少、葉の黄化、
節間伸長期～出穂期:穂数の減少、
出穂期以降:粒の充実不良による収量・品質の低下
など生育に様々な悪影響があります。

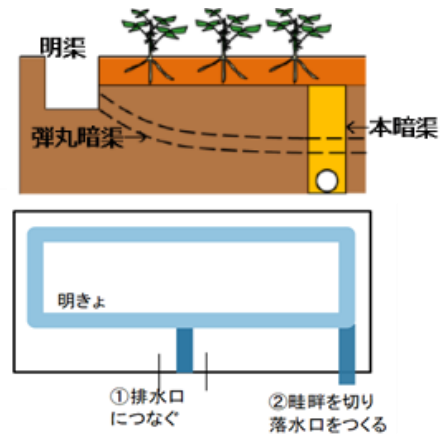


図2 明きょ施工のイメージ図
(上)深く掘り弾丸暗渠に接続
(下)排水路の確保

○地表排水…額縁明きょ、ほ場明きょ

右上図のイメージ図のように、明きょは深さ 20～30 cmで施工し、確実に排水溝につなぎましょう。
また、排水の悪いほ場は明きょ間隔を 5m以内としましょう。

○地下排水…本暗きょ、補助暗きょ(弾丸暗きょ)

本暗きょと直交または斜交するように、地表から 40 cm、2～3m間隔で弾丸施工しましょう。

(2)土づくり

畑地では土壌中の有機物分解が早まるため、地力の減耗、団粒構造などの土壌物理性が低下しやすくなります。

○有機物施用は計画的に

・稲わら主体の堆肥は2t/10a、牛ふん堆肥(窒素含有率 1%)は1t/10a、豚ふん堆肥(窒素含有率 2%)は 500kg/10a を目安に施用しましょう。

○大麦では pH 6.1～ 7.0、小麦では pH 5.6～ 6.5 が目安

・転換畑は、一般的に pH 5.0～5.5 です。低 pH だと根の伸長が阻害されて生育不良となるので、苦土石灰等の石灰質資材により土壌酸度を矯正しましょう。

○播種に適した土壌条件にするための耕起・整地

・発芽率や除草効果の向上のため、碎土率を確保(直径 2cm 以下の小土塊が 70%以上)しましょう。

ただし、強粘土では、碎土が降雨などでしまり、通気性や透水性がかえって損なわれる場合があります。土質に応じて管理しましょう。



図3 碎土率75%の土

・赤かび病は、ほ場残渣が次作の発病源となります。連作はできるだけ避けるとともに、連作する場合
には地上に残渣を残さず、丁寧にすき込んでください。

～～～麦作ではpH が重要です～～～

管内で、連作ほ場を中心に酸性障害が多く見られています。

pH が適正なほ場では3月ごろ気温の上昇とともに急激に茎数が増加しますが、酸性障害のほ場では下葉の黄化や分げつの抑制など、生育の鈍化が目立つようになります。

根は短く、少なく、重症の場合褐変します。

酸性障害の対策には、作付け前の石灰質資材の投入のほか、水田作との輪作、堆肥などの土づくり資材の投入による保肥力アップなどが有効です。また、普及センターでpH や塩基バランスを測定する土壌分析を行っていますので、お問い合わせください。(測定には通常2～3週間かかります。)



pH5.0前後の小麦ほ場での酸性障害

(3)適期播種と適正な播種量

・平年通りの気温であれば、北部平坦地域の麦類の播種適期は10月5日～10日頃、晩限は10月20日頃です。近年は暖冬のため延伸する傾向にはありますが、遅くなり過ぎないようにしましょう。大豆後の麦は11月下旬までに播種を行いましょう。



図4 播種の遅れによる弊害

○播種量の目安

・目標収量 500kg/10a の場合、概算で成熟期の穂数は 500 本/㎡、出芽本数は 200 本/㎡必要であるため、播種粒数は 250 粒/㎡程度(播種条件等で変動)必要となります。

・ドリルシーダーで 250 粒/㎡播種する場合、条間 30cm では 75 粒/m、25cm では 50 粒/mとなります。

※表4のように千粒重により調整。

・播種が早い場合は播種量を減らし、遅れた場合は増やして対応しましょう。

※ただし大麦は 12kg/10a、小麦は 15kg/10a まで

表4 播種量の目安 (標準播種期の場合)

	千粒重 (g)	播種量(kg/10a)	
		250 粒/㎡	200 粒/㎡
シラネコムギ 夏黄金	42	10.5	8.4
	40	10.0	8.0
	38	9.5	7.6
	35	8.8	7.0
ホワイト ファイバー	38	9.5	7.6
	35	8.8	7.0
	32	8.0	6.4

○播種深度は3cm程度

- ・浅いと除草剤や凍霜害、乾燥の影響が大きくなり、深いと苗立率が低下し、図5のように二段根となります。
- 二段根では、根量の増加や分けつが抑制され、生育が悪くなります。

表5 播種深と出芽苗立ち(埼玉農試、1984を一部改変)

播種	播種深 (cm)	出芽まで 日数(日)	苗立率 (%)	最高分けつ期 茎数(本/㎡)
ドリル播	1	13	76.3	995
	3	14	77.7	1,105
	5	14	62.9	880
	7	15	60.3	580



図5 左:正常 右:二段根 の小麦の根

(4)雑草対策

○播種直後の土壌処理剤が基本、生育期に雑草が発生する場合は茎葉処理剤

- ・土壌処理剤の効果を高めるには、碎土率の確保、ほ場が湿った状態で散布することが効果的です。土壌が極端に乾燥していると土壌処理剤の効果が劣るので、登録の範囲内で希釈水量を多めに散布します。
- ・播種後は気温が低く、雑草が目立たない場合がありますが、特にイネ科の雑草の多くは茎葉処理剤の効果が低いため、発生ほ場では必ず土壌処理剤を施用しましょう。

(5)施肥

「稲は地力で、麦は肥料でつくる」と言われるように、麦類は多量の肥料を必要とします。

○基肥

- ・麦類の収量は穂数の多少で決まるため、越冬前の生育量確保が重要ですが、基肥窒素の利用率が低く、増施しても生育量は増加しません。播種が遅れた場合でも基準量を施用します。
- ・稲わらすき込み後の作付けの場合は、稲わらの分解に窒素が使われるため、窒素成分を10～20%増やします。

表6 標準施肥体系

施用時期 栽培品種 肥料形態		10月上～中旬 基 肥	2月上～中旬 株直し追肥 <幼穂形成前> 【葉色の維持】	3月中～4月上旬 幼穂形成期追肥 <幼穂長2～3mm> 【穂数増加】	4月中～下旬 減数分裂期追肥 小麦<幼穂長2～5cm> 大麦<幼穂長2～3cm> 【一穂粒数増加】	5月上～中旬 穂揃期追肥 <80～90%が出穂> 【千粒重, タンパク含量向上】
シラネ コムギ	窒素成分量	7～9kg/10a	基本的に不要 必要に応じて 窒素成分 1kg/10a	2.5kg/10a	5kg/10a	2.5kg/10a
	肥料現物量	40～50kg/10a (尿素・過リン酸アンモニア777号)		5.5kg/10a(尿素)	11kg/10a(尿素)	5.5kg/10a(尿素)
				12kg/10a(硫酸)	24kg/10a(硫酸)	12kg/10a(硫酸)
夏黄金	窒素成分量	8～10kg/10a		2.5kg/10a	5kg/10a	5kg/10a
	肥料現物量	50～60kg/10a (尿素・過リン酸アンモニア777号)		5.5kg/10a(尿素)	11kg/10a(尿素)	11kg/10a(尿素)
				12kg/10a(硫酸)	24kg/10a(硫酸)	24kg/10a(硫酸)
ホワイト ファイバー	窒素成分量	8～10kg/10a		2.5kg/10a	2.5kg/10a (5kg/10a)	—
	肥料現物量	50～60kg/10a (尿素・過リン酸アンモニア777号)		5.5kg/10a(尿素)	5.5kg/10a(尿素)	—
				12kg/10a(硫酸)	12kg/10a(硫酸)	—

※ 資材選択は例。

※ ホワイトファイバーの減数分裂期追肥では、葉色が41未満(SPAD値)の場合は5kg/10aを追肥する。

○幼穂形成期追肥 ～穂数が増える～

- ・幼穂形成期の追肥は、有効茎歩合が高まって穂数が増える効果があります。

○減数分裂期追肥 ～一穂粒数が増える～

- ・減数分裂期の追肥は穎花の退化を防止する効果があり、一穂粒数の増加及びその後の登熟向上のために行います。

○穂揃期追肥 ～品質向上～

- ・穂揃期追肥は、千粒重・容積重・子実タンパク質含有率などの品質向上のために行います(小麦のみ)。

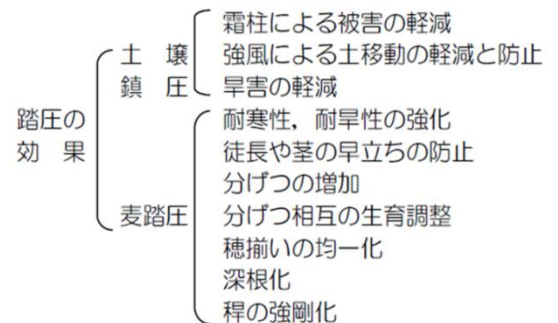
☆株直し追肥は基本的には不要で、以下の場合などに実施を検討します。

- ・低温期に葉色が低下した場合
- ・播種時期が遅れて茎数不足(400本/10a以下)の場合
- ・著しい鳥害を受けた場合

(6) 麦踏み(踏圧)

○効果(右図を参照)

- ・乾燥、強風、暖冬時に効果が高く、小麦より大麦、地力の低いほ場より高いほ場で効果が高まります。
- ・過湿条件や重粘土では逆効果の場合もあります。



○作業時期と回数

- ・麦踏みの時期は、離乳期(3～4葉期)から茎立ち前までです。
(主稈長 2cm 程度から幼穂長 2mm 程度)。
- ・越冬前(凍結層ができる前)に 1 回、越冬後に 1～2 回を基本に、遅播きや過湿ほ場では回数を少なく、早播きほ場や暖冬年は回数を多くしましょう。
- ・「夏黄金」は、遅れ穂発生を抑制するため、特に麦踏みが重要です。

冬期の鳥の食害後は・・・

食害時に株が引っ張られて根が浮き上がり、凍霜害の影響が出やすくなるので、早期に麦踏みを行うとともに、茎数回復のため、株直し追肥をします。

堆肥早春散布について

◎水稻、大豆後作などで麦作付け前に堆肥散布を行わなかったほ場では、越冬後(3葉期)～幼穂形成期前まで、麦上から堆肥散布することができます。

詳しくはこちら↓
美里普及センターHP
堆肥早春散布パンフレット



ポイント

- ① 散布期間は麦3葉期～茎立ちまで(2月～3月中旬ころ)
- ② 散布はマニュアルスプレッダーで、ほ場が乾いているときに。
- ③ 牛ふんたい肥1～2t/10aを目安に ※地力・成分に応じて加減

- ・土づくり効果が認められ、増収した事例があります。
- ・ほ場によっては、土壌の保水性・排水性が向上しました。
- ・牛ふんたい肥施用後も、越冬後の追肥は慣行通り行ってください。

